

図書紹介

エコ・フォレストィング (柴田 晋吾著, (株)日本林業調査会 303 pp. 2006年発行, 2,500円)

“Eco-foresting” という新語を掲げての、現職の林野庁行政官による持続可能な森林経営論である。フォレストィング (Foresting) とは、人類が森林環境と関わり合う意味として用いることを提案している。

第1章「欧米諸国の森林環境政策の歩み」では、アメリカ、カナダ、スウェーデン、フィンランド、ノルウェー、ドイツ、フランスを取り上げ、20世紀後半の森林管理・経営の変遷を、その時々のエピソードやデータ分析を加えて分かり易く解説してくれており、環境や社会的要請と林業との対立から調和への展開における各国における要因分析の比較や各国のフォレスターの対応分析は大変興味深い。

第2章「エコ・フォレストィングの思想と手法」では、森林に関する長期的な計画策定手法の発展について、アメリカを題材として、エコシステム・マネジメントの内容を詳しく紐解き、木材生産機能の適切化を図ることで、自動的に森林が有する他の機能が維持されるという「予定調和論」の限界を示しつつ、期待され・重視される機能とそのレベルに着目したゾーニング等を踏まえた「計画調和論」による森林管理の順応的管理の理論が整理されている。その中で、標題となっている「エコ・フォレストィング」のエコが、ecology と economy の両方を具備したものであることが解説されている。

第3章「協働による森林環境管理」では、「協働 (コラボレーション)」の考え方とその生まれた背景を解説し、世界各地で行われている様々な協働の取り組みの手法、事例を紹介している。また、多様な利害関係者の参加・協働による森林・土地利用計画の策定について、すでに四半世紀の経験を有しているアメリカ国有林、およびカナダ BC 州の取り組みの実態について追跡、分析し、これらの取り組みの教訓を示唆している。

第4章「エコ・フォレストィングの可能性」では、FAO の最新統計から世界の森林資源の現状分析を行い、木材以外の多様な森林産品、森林環境サービスを対象として包含する経済活動としての「森林業」を改めて定義し、エコ・フォレストィングを図る上での森林業の意義を論じている。さらに、世界各地における取り組み事例から、非木材森林産品やエコ・ツーリズムのポテンシャル、さらには森林からの環境サービスに対する支払いのスキームを分析しつつ、エコ・フォレストィングの可能性を幅広く紹介している。

本書は、海外森林・林業に関わる者への執務参考書となるだけでなく、国内の公的セクターにおける森林計画担当者に加えて、森林に関心を有する NGO や NPO のグループに広く読んでいただきたい好著である。筆者の 20 数年間の研究成果の集大成である。 (永目伊知郎)